

ソーシャルワーク応用実習

[実習] 第4学年 前期 選択 4単位

《履修上の留意事項》実習前後に開講されるソーシャルワーク応用実習、ソーシャルワーク応用実習と連動する科目である。

《担当者名》 近藤 尚也 n-kondo@hoku-iryo-u.ac.jp ○巻 康弘 大友 芳恵 志水 幸 福間 麻紀 片山 寛信 (主担当、副担当○)

【概要】

実践と研究の視点を深めながら社会福祉実践の統合化を図ることを特色とする実習である。従って、この科目を選択する学生は、研究的課題やソーシャルワークにおける実践的課題をもって実習に臨む必要がある。

【学修目標】

- 実習分野の特性を理解することができる
- 自らが設定した実践的課題を中心に実践力を高めることができる
- 自らが設定した研究的課題を中心に研究的思考を持って実習に取り組むことができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第一週	機関理解	自らが設定するソーシャルワークに関わる実践的課題・研究的課題を理解する上での機関の特性について理解を深める	大友、志水、巻、福間、片山、近藤
第二週	ソーシャルワーク応用実習	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	大友、志水、巻、福間、片山、近藤
第三週	ソーシャルワーク応用実習	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	大友、志水、巻、福間、片山、近藤
第四週	ソーシャルワーク応用実習	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	大友、志水、巻、福間、片山、近藤
第五週	ソーシャルワーク応用実習	自らが設定するソーシャルワークにかかわる実践的課題・研究的課題に関する理解を深める	大友、志水、巻、福間、片山、近藤

【授業実施形態】

面接授業
授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習施設・機関からの評価40%、実習態度30%、実習日誌30%などにより総合的に評価する。

【教科書】

必要に応じてプリント等を配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【学修の準備】

次回の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
自らが設定した実習課題に関わる価値・知識・技術を確認すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.1.3.4.5

【実務経験】

大友 芳恵（社会福祉士） 巻 康弘（社会福祉士） 福間 麻紀（社会福祉士） 片山 寛信（社会福祉士） 近藤 尚也（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。